

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671400196
法人名	社会福祉法人 京都南山城会
事業所名	グループホーム 山城ぬくもりの里
所在地	〒619-0204京都府木津川市山城町上狛小杉谷6番地 電話 0774-86-5833

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月25日

## 【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 12.5 人	

## (2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500 円			

## (4)利用者の概要(10 月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低 67 歳	最高 95 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院 ・ 柿木歯科 ・ 大西歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の要望により地域医療福祉に貢献してきた法人を母体とする当該グループホームは、高齢者総合福祉施設と隣接しています。豪華な邸宅を感じる広い庭とユニットの間には中庭があり、広々とした室内の中で利用者はその人らしく、ゆったりと過ごされ、様々な趣味活動ができるよう支援しています。また、裏に農園もあり、利用者が生活歴を活かし、野菜作りをしています。家族会やアンケートを実施し、家族から意見や希望を聞く機会をつくり、サービスの向上に積極的に取り組まれています。職員の労働環境に対する法人によるバック体制が構築され、離職者もないことから、馴染みの職員での支援がなされ、利用者が安心して過ごせるホームとなっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、自らの改善点を把握する機会となり、ホーム独自の理念を掲げたり、改善計画を立てて取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、自己評価委員会を設置し、自己点検に努め、改善点のチェックを行って改善に向けた取り組みを職員で話し合い、その結果を、ユニットリーダーと自己評価委員がまとめて作成されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、民生委員、木津川市高齢者介護課課長、法人事務局長、管理者、ユニットリーダーをメンバーとし、2ヶ月に1度開催しています。行事報告や写真報告、意見交換等を議題とし、ホームでの支援内容について話し合われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年2回開催し、意見交換をしたり、要望等について話し合わせ、家族会の報告書を作成し、欠席の家族に送付しています。また、年1回のアンケートを行い、玄関には意見箱を設置し、得られた意見等を運営に反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の広報誌などを参考に市主催の七夕祭りや小学校の運動会、中学校とのグランドゴルフ交流会、市社会福祉協議会の三世代交流かるた会、教育委員会のクラシックコンサート等積極的に参加し、交流を図っています。地域に広報誌「里だより」を配布したり、地域の方がボランティアとして来てもらったりし、地域とのつながりを大切にしています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「住み慣れた地域で安心して暮らしていける」を基に、職員会議で話し合い、事業所独自の理念を作り上げました。ホームが地域の関わる場所と位置付けて「ささえあい、ほほえみあって、住める家」という理念を掲げ、利用者の毛筆書きで掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や行事の際、外部評価、委員会会議の際、年2回の自己評価の際、昇格試験の中でも確認している。日々、理念を振り返りながら全職員が共有し実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の広報誌などを参考に、市主催の七夕祭りや小学校の運動会、中学校とのグランドゴルフ交流会、市社会福祉協議会の三世代交流かるた会、教育委員会のクラシックコンサート等積極的に参加し、交流を図っている。自治会、老人会に入る検討をしている。地域に広報誌「里だより」を配布したり、地域の方にボランティアとして来てもらったりし、地域とのつながりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、自己評価委員会を設置し、自己点検に努め、改善点のチェックを行って改善に向けた取り組みを職員で話し合いの結果ユニットリーダーと自己評価委員がまとめて作成した。前回の外部評価を受けて、自らの改善点を把握する機会となり、ホーム独自の理念を掲げたり、改善計画を立てて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、民生委員、木津川市高齢介護課課長、法人事務局長、管理者、ユニットリーダーをメンバーとし2ヶ月に1度開催をしている。行事報告や写真報告、意見交換等を議題とし、ホームでの支援内容について話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの巡回車があり、連絡便ボックスに伝えたいことを入れておく、返事があつたりホームまで来てもらえることも多く、密に連携が取れている。困ったときは市役所に直接行き相談に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員に担当者を決め、便りを作り、一人ひとりの日々の様子や行事報告、翌月の予定を写真と一緒に送付しています。また、金銭管理は立替制であり、領収書(レシート)添えて請求書に明細を記入し、送付している。来訪時には家族に利用者の日々の暮らしや健康状態を報告したり意見や要望を聞くようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し、意見交換をしたり、要望等について話し合われ、家族会の報告書を作成し、欠席の家族に送付しています。また、年1回のアンケートを行い、玄関には意見箱を設置し、得られた意見等を運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として全員の常勤雇用とし異動も最小限に抑えていたり、労働環境が整えられており、離職者もほとんどいない状況である。施設長は年2回、職員に自己評価を行い、面談で希望や相談できる体制が整備されている。新人職員には1週間から10日間で利用者や馴染みの関係を築けるようにシフト等を考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら研修を受講出来るよう、法人によるバックアップ体制が構築されている。法人全体の研修は2ヶ月に1回研修を受けている。年間計画に添って施設ごとに応じて順次全職員が受けれる体制がある。職員は委員会活動に参加し、各委員会の内容を持ち帰り、伝達研修を行っている。外部研修も職員の希望に添って受けてもらったり、管理者が決めて受けてもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャー部会の勉強会等で交流を図っている。他のグループホームの交換研修に職員から行ってみたいと意欲的な意見もあり、考慮している。	○	他のグループホームと同じ思いを持って、困っていること等を相談したり相談に乗ったり、交流の機会を持つことで独自のホームの良さや気づきを知るきっかけになるのではないのでしょうか。職員の意欲的な意見を汲み取られ他のグループホームへ交換研修等の機会を設けることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族に見学に来てもらっている。また、1週間を目途にお試し期間を設け、実際の雰囲気を味わってもらっている。入居後は、密にコミュニケーションを図りながら馴染んでもらえるように支援し、特に夕方から夜にかけて自然に過ごしてもらえるよう気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は調理、買い物、掃除等を協力して行う中で、利用者は人生の先輩として学ばせてもらっている。例えば、出し昆布の残りを使った料理や味付け等を色々な場面で教えてもらっている。また、日常生活の中で利用者と職員は家庭的な関係の中で喜怒哀楽を共に過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性を大切に、日常会話の中から利用者の思いや希望などを引き出し、把握してはいるが記録が充分ではない。定期的に24時間アセスメント等を行い、個々の利用者の現状や意向を捉えたいと考えている。	○	利用者の生活歴や環境から教えて頂くことも多くあり、利用者、家族の思いや意向を聞き取ったことや日々の会話から引き出した思いや意向をアセスメント記録に残される事が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス等により、利用者の課題や喜ばれる事などを検討し、家族の希望も取り入れ、職員は利用者の日々の暮らしを把握し支援しているが介護計画への反映が充分ではない。	○	介護計画は利用者、家族の希望や意見、医師の意見を、ケアカンファレンスで話し合ったことを記録に残し、利用者の出来る事、出来ない事を把握し、目標の計画に添って介護計画が作成されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定期間を介護計画の期間と設定している。期間終了時にカンファレンスを行い見直しをしている。明らかに変化のあったときにも見直しを行っている。	○	介護計画に添って日々の記録にぶれてはいないか、日々の記録の中で確認をし、目標の計画を定期的に見直しが出来ているか、出来ていないかを評価をし、見直しが必要であればカンファレンスで現状に即した新たな介護計画の作成が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族の希望で病院の送迎を行っている。また、喫茶店への個別外出を柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定は、利用者、家族一人ひとりの希望を聞き、個々に添った支援をしている。また、家族送迎や家族の希望でホームからのかかりつけ医の送迎もしている。往診は月1回、歯科医は月2回、必要に応じて眼科医は月1回、訪問をしてもらっている。また、日々の暮らしの中では、法人の医務室から看護師が1日1回は訪問している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化についての説明を行ない、重度化になった場合には書面化し、家族、主治医の意見等の連携を密に話し合い、同意をえている。ターミナルの受け入れは行ったことがあり、方針について職員が共有できるようにして家族、医師、看護師と共に全員で支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守り、プライバシーを侵害しないように心掛けている。職員の対応の中での不適切な言葉使いがあれば、その都度席を外し注意している。個人情報に係る記録物等は事務所の書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は8時頃と決められているが、起きるのが遅い利用者には起きてこられてから食べてもらっている。一人ひとりの個々のペースを大切にしながら出来る力を発揮出来るように希望に添って支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者と職員は買い物から調理、盛り付け、片づけまで、一人ひとりの出来る力を引き出しながら一緒に行っている。食事は職員と一緒に楽しく会話をしながらゆったりと摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の希望があれば可能である。3日に1回のペースで入浴できるようにし、体調が悪くなければ出来る限り希望の時間にゆっくり気持ち良く入浴をしてもらっている。また、入浴拒否の時等、状況によっては足浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話の中から一人ひとりの出来る事や楽しみを把握し、生活歴を活かした家事の食事作りや洗濯たみ、畑での野菜作りや花への水やりと役割を持ってもらっている。また、楽しみ事として手芸や陶器、書道、生け花、短歌等、サークル活動に関わって楽しんでもらっている。月に1回誕生日会に外食を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の支援で外出できている利用者もあり、外は坂道もあり、無理の無い外出に配慮しながら、午前、午後その時々で状況で散歩したり、日々の買い物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないようにしている。また、玄関にセンサーを設置し、安全には配慮している。外出希望の利用者には、職員が付き添い散歩に出かける等の対応に心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立ち会いの昼夜想定で避難訓練をしている。地域での消防団組織が構築しており、何かあれば駆けつけてくれる協定が組まれている。また、災害時の避難場所に近いその設備内容も確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し、利用者の状態に添ってミキサー食や刻み食に配慮している。水分は食事時や入浴時、おやつ時等その都度、しっかり摂取して頂いており、必要な利用者の水分摂取量の記録をしている。利用者、職員でメニューを考え、その内容を栄養管理士に確認してもらっている。月に2回体重測定し体重の増減に気を配り、食事摂取量の少ない時には記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にはゆったりと座れる長椅子があり、玄関は広く明るく、下駄箱の上には季節の花や雛段ケースが置かれ、廊下、共用スペースの壁には利用者の作品が飾られている。リビングにはテーブルの上に花が生けられ、ゆったりとした空間があり、一人になれるスペースもある。建物の周りにウッドデッキテラスがあり、プラントナーには季節の花が咲いて、外の景色には竹林が見えるなど居心地の良い建物となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたドレッサーやタンス、洋服掛け、衣装ケース、椅子、時計、電話、ご自分で作られた陶器等の作品を持ち込まれ、その人らしい居心地の良い居室となっている。		